

**第2次観音寺市総合振興計画策定のための
まちづくり懇談会結果報告書**

平成29年1月

◆開催目的と実施概要

1. 開催の目的

「第2次観音寺市総合振興計画」策定にあたり観音寺市で、市民生活、健康福祉、教育・子育て、農林水産、商工観光等の各分野で様々な活動を展開している団体・企業の皆様から今後のまちづくりに対する意見・提案を聞き、計画に反映することを目的として、アンケート調査とグループヒアリングを実施しました。

2. 実施概要

対象団体	
市内で活動または市内に事務所のある団体・企業を対象として実施	
アンケート調査配布期間	
[期間] 平成28年10月6日(木)～平成28年10月24日(月)	
[回収] 33団体	
ヒアリング調査	
[1日目 市民生活グループ] 平成28年10月31日(月) 19:00～21:00/参加: 8団体	
[2日目 健康福祉、教育、子育てグループ] (①教育・文化グループ、②健康福祉、子育てグループ) 平成28年11月1日(火) 19:00～21:00/参加: 15団体	
[3日目 農林水産、商工観光、建設グループ] 平成28年11月2日(水) 19:00～21:00/参加: 9団体	
【合計: 32団体】	

3. 団体一覧

1日目 市民生活グループ: 10月31日(月) 19:00～21:00			
	団体名	アンケート	ヒアリング
1	観音寺市自治会連合会(観音寺地区自治会協議会)	○	○
2	大野原地区自治会協議会	○	—
3	豊浜地区自治会協議会	○	○
4	観音寺人権擁護委員協議会	○	○
5	観音寺市女性団体連合会	○	○
6	観音寺市消防団	○	○
7	観音寺交通安全協会	○	○
8	一般社団法人みとよ青年会議所	○	—
9	まちづくりネットワーク Re:born.K	○	○
10	五郷里づくりの会	○	○

2日目 健康福祉、教育、子育てグループ：11月1日（火） 19：00～21：00

【①教育・文化グループ】

	団体名	アンケート	ヒアリング
1	観音寺市PTA連絡協議会	○	○
2	観音寺市幼稚園PTA連絡協議会	○	○
3	観音寺市幼小中校長園長会	○	○
4	香川県立観音寺中央高等学校	○	○
5	観音寺市子ども会育成連絡協議会	○	—
6	観音寺市文化協会	○	○
7	観音寺市体育協会	○	○
8	観音寺市文化財保護協会	○	○
9	観音寺市国際交流協会	○	○

【②健康福祉、子育てグループ】

	団体名	アンケート	ヒアリング
1	観音寺市愛育会	○	○
2	観音寺市連合保護者会	○	○
3	特定非営利活動法人子育て応援NPOフレンズ	○	—
4	社会福祉法人 観音寺市社会福祉協議会	○	○
5	観音寺市民生委員・児童委員協議会	○	○
6	観音寺市身体障害者協会	—	○
7	観音寺市老人クラブ連合会	○	○
8	社会福祉法人ラーフ	○	○

3日目 農林水産、商工観光、建設グループ：11月2日（水） 19：00～21：00

	団体名	アンケート	ヒアリング
1	観音寺商工会議所	○	○
2	観音寺商店街連合会	○	○
3	香川県農業協同組合三豊地区営農センター	○	○
4	香川県農業協同組合豊南地区営農センター	○	○
5	豊南担い手育成グループ	—	○
6	株式会社 百十四銀行 観音寺支店	○	○
7	観音寺信用金庫	—	○
8	観音寺市水産振興連絡協議会	○	○
9	観音寺市建設業協会	○	○

◆総 括

■地域活動の活性化、担い手の確保が重要

- ・各団体活動において、高齢化の進行や若者の流出による会員の減少、担い手不足が課題となっています。地域活動等においては、若い世代の参加を促すため、地域行事等における実施体制の見直しや、ニーズに合わせた運営面の改革等が検討される一方、若い世代の地域への関心や愛郷心の欠如も課題となり、その意識改革も重要です。
- ・本市の「ちょうさ祭り」は、地域コミュニティの形成に大きな影響力を持っており、中学生・高校生アンケートの結果から、若い世代の意識にも深く根付いていることがうかがえます。「ちょうさ祭り」に代表される祭りや地域行事等、住民が楽しめる機会をより多く創出することで、地域活動のより一層の活性化が期待されています。

■人口減少抑制のためには「雇用の確保」が最重要課題

- ・産業関連団体においても、事業所の減少及び後継者不足が課題となっており、活力あるまちを維持するためには、企業誘致や創業・就農支援等による雇用機会の確保が重要となります。
- ・「雇用の確保」については、若い世代の定住やU J I ターンの促進のために必要な取り組みとして、「子育て環境の整備」や「居住環境の整備」とともに、各団体から多くの意見が挙がっています。雇用環境の整備とともに、U J I ターンを促進するためには、中高生や市内出身の大学生に向けた市内企業に関する積極的な情報提供も必要とされています。

■地域資源を活用した交流の拡大

- ・新市民会館やふるさと学芸館、大野原古墳群等の地域資源を活用して、市内での交流を促進するとともに、イベントの開催や本市の魅力（観光地、歴史、文化等）をPRすることで、市外から人を呼び込み交流人口を増加させることが求められています。

■子どもから高齢者までだれもが住みやすいまちづくりの推進

- ・安心して子どもを産み育てられる環境の整備や子育て世代への支援の充実とともに、高齢者に向けた健康・生きがいづくり等の高齢者福祉の充実により、子どもから高齢者までだれもが住みやすい安心・安全なまちづくりを推進することが求められています。そのためには、地域ぐるみで子どもや高齢者を支える体制の整備も重要となります。

◆グループ別の意見のまとめ

1日目 市民生活グループ

1. 日頃活動を行う上で困っていることや問題点

課題解決に向けて、必要だと思うことや既に取り組んでいること

※問題点（●）、必要だと思うこと・現在の取り組み（○）

【自治会】

- 若い世代の興味が薄い、面倒くさいという意識、自治会費が高い等の理由による、自治会加入率の低下（毎年約0.5%ずつ減少）
- 自治会加入率の地域差（豊浜では「ちょうさ祭り」によって、地域に絆が根付いている）
- 自治会費の見直しや受け入れ側の意識の変革等、運営面の改革
- 加入によるメリットの創出

【防災・交通安全】

- 消防団員の欠員及び活動への参加率の低下
- 消防団活動の重要性の啓発、メリットの創出
- 学校や地域団体と一体となった交通安全意識、交通マナー向上への取り組み推進

【地域活動団体】

- 会員の高齢化や担い手不足、活動への参加率の低下
- 運営資金の不足
- 地域に団結力がある一方、外には閉鎖的
- 若い世代ほど共助の取り組みを行わない傾向にある
- 若い世代も参加しやすい地域行事等の実施体制の構築
- 主体的に行動できる人材の育成
- 補助金の活用や利益を生む活動の検討

2. 人口減少を抑制し、今後も活力あるまちを維持するために力を入れるべきこと

観音寺市の今後のまちづくりに関する考え、アイデアなど

- 若者の定住対策の推進
 - ・結婚支援
 - ・若者同士の交流機会の創出
 - ・雇用の確保
 - ・新規就農者への支援拡充
 - ・観音寺市で現在行っている地域活動の啓発
- 子育て環境の整備・充実
 - ・分かりやすい他の自治体との差別化（○○無料化等）
 - ・住宅確保への支援拡充
 - ・共働き世帯への支援拡充
 - ・「広報かんおんじ」をもっと見やすく、子どもも興味を持てるよう工夫する
- 観音寺市の住みやすさ（食べ物おいしい、空気がきれい、災害が少ない等）のPR

○地域活動の活性化

- ・「楽しい」「わくわくする」という気持ちが活動の基本
- ・祭り等の地域行事を通じた思い出や交流機会の創出
- ・多世代が交流できるイベントの創出
- ・ボランティアの活動の場の創出
- ・地域活動への高校生の参加促進（参加へのハードルを下げることや、経験不足の点をフォローすること等）
- ・地域活動団体への助成や活動場所の確保
- ・主体性を持った人材の育成

○文化活動の充実

- ・働いている人も参加できる夜間の学びの場の創出
- ・文化面の充実、文化財への住民理解の促進

○安心・安全なまちづくりの推進

- ・高齢者に向けた健康づくりや居場所づくり
- ・買い物弱者対策の充実
- ・災害時の避難所施設の確保

○交流の促進

- ・文化、スポーツ等の全国規模のイベントの創出
- ・四国中央市、三好市と連携した四国の中核エリアとしての新機軸の創出
- ・訪日観光客が年々増加している中国等との市民・民間レベルでの交流促進により、交流人口の増加を図る

○人口減少社会を見据えた持続可能なまちづくりの推進

【総括】

- 市民生活に関する地域活動団体においては、会員の高齢化や担い手不足とともに会員の活動への参加率の低下が課題となっています。
- 特に、自治会では若い世代を中心に自治会離れが加速しており、要因となる自治会費の見直しや加入しやすい体制の構築等、運営面の改革が必要とされています。
- 各団体で、加入によるメリットの創出や若い世代に照準を合わせた実施体制の構築等、加入の促進や活動への参加を促す取り組みが行われています。
- 地域に深く根付いている「ちょうさ祭り」は、大きな影響力を持っており、祭りを通して地域に絆が生まれ、愛郷心の育成につながっています。
- 若い世代に向けた、結婚支援、雇用の確保、子育て環境の整備等の人口減少対策とともに、将来の観音寺市を担う主体的な人材の育成が必要とされています。
- 祭りや地域行事等、世代に関わらず住民が「楽しい」「わくわくする」と思える機会を創出することは、愛郷心の育成とともに地域活動の一層の活性化につながることを期待されます。
- 高齢者にとっても住みやすい安心・安全なまちづくり、周辺地域との連携による交流の拡大に向けた取り組みの推進が求められています。
- 地域の活性化に向けた取り組み推進の一方で、人口減少社会を見据えた持続可能なまちづくりを進めていくことが必要です。

2日目 健康福祉、教育、子育てグループ（教育・文化）

1. 日頃活動を行う上で困っていることや問題点

課題解決に向けて、必要だと思うことや既に取り組んでいること

※問題点（●）、必要だと思うこと・現在の取り組み（○）

【教育】

①幼稚園

- 南海トラフ地震等に対応する施設整備の充実
- 教育体制の充実（7園中2園が4・5歳児のみ対象の2年制）

②小学校

- 保護者から選ばれる学校となるため、学力と心のバランスが取れた教育環境の整備
- 発達障害児への対応
- インターネットの普及による子どもへの悪影響（犯罪被害やいじめ等）
- PTA活動への保護者の積極的な参加姿勢がみられない、学校ごとの活動の充実が必要

【文化】

- 会員の高齢化及び会員数の減少、若い会員や参加者の減少
- 郷土愛や郷土への関心の欠如
- 若手のリーダーや指導者の育成、文化の発信強化のための人材確保
- 高齢化への対応や活動場所の確保に向けた公共施設の整備
- 新規会員の確保に向けた交流機会の創出
- 郷土愛の育成や交流拠点として、「ふるさと学芸館」の活用促進

2. 人口減少を抑制し、今後も活力あるまちを維持するために力を入れるべきこと

観音寺市の今後のまちづくりに関する考え、アイデアなど

- 進学等で一度市外に出た若者のUターン対策
 - ・郷土愛を育む教育の推進、地域との交流機会の創出
 - ・戻ってきたいと思える雇用環境の整備（企業誘致等）、地元企業の周知
 - ・奨学金制度の創設
- 移住者対策の充実
 - ・災害が少ない環境のPR
 - ・県営住宅の誘致や空き家の活用等による低料金での住まいの提供
 - ・農業の振興
- 若い世代に魅力的な子育て環境の整備
 - ・保護者に選ばれる魅力ある教育環境の整備（いじめがない、学力が高い、情報対応等）
- 地域活動団体の連携
 - ・必要な人と地域活動団体をつなぐコーディネーター（ワンストップ相談窓口）の創設
 - ・学校と地域活動団体の連携による文化に触れるきっかけづくりや活動の充実
- 地域資源の活用
 - ・国指定史跡である大野原古墳群をきっかけとする文化資源の活用促進やPRの強化
 - ・子どもから高齢者を対象とした「ふるさと学芸館」の活用促進
 - ・空き校舎等の利活用の促進

- ・新しい市民会館等を活用したイベントの開催
- 行政体制の整備
 - ・首長、議員の若返り
 - ・専門職員の充実
 - ・文化資源等のPR活動の強化

【総括】

- 子どもの教育環境では、施設整備の充実とともに、学力だけではなく、コミュニケーション力の向上や個性を活かすバランスの取れた教育環境の整備により、選ばれる学校づくりが求められています。
- 文化活動等では、会員の高齢化とそれに伴う会員の減少が進んでおり、若い会員の確保やリーダー・指導者の育成が課題となっています。
- 市外に出た若い人にいかに戻って来てもらうかが重要となり、そのためには小さい頃からの愛郷心の育成や、戻ってきたいと思える雇用環境の整備が必要とされます。
- 転入促進に向けた取り組みとして、居住環境の整備とともに、安心・安全な住環境のPRや、農業の振興、充実した教育環境等の観音寺市の“売り”の創出が求められています。
- 団体と地域のニーズのマッチングにより、新たな交流の創出や活動の充実が期待されます。
- 大野原古墳群が国指定史跡となったことやふるさと学芸館の開館、新市民会館のオープン等をきっかけに、観音寺市の豊富な地域資源の一層の活用促進やPR強化によるにぎわいの創出が求められています。

2日目 健康福祉、教育、子育てグループ（健康福祉・子育て）

1. 日頃活動を行う上で困っていることや問題点

課題解決に向けて、必要だと思うことや既に取り組んでいること

※問題点（●）、必要だと思うこと・現在の取り組み（○）

【健康福祉】

- 少子高齢化の影響による会員数の減少や担い手不足
- 専門職（保健師、社会福祉士、介護支援専門員、訪問介護員等）の不足
- 民生委員の活動で個人情報保護法がネックとなり、要援護者の情報が共有できない
- のりあいバスの利便性の確保

【子育て】

- 子育て世代は忙しく活動回数が少ない
- 取り組みや事業のPR、情報不足
- 複数の団体で協力して親子交流や三世代交流に取り組んでいる

2. 人口減少を抑制し、今後も活力あるまちを維持するために力を入れるべきこと

観音寺市の今後のまちづくりに関する考え、アイデアなど

- 若者が地元に戻り、定着するようなまちづくり
 - ・ 企業誘致
 - ⇒ 納税、雇用があれば市の財政も潤い、各団体への助成金も増える。若者も定住する。
 - ・ イベント等若者が楽しめる場の創出
 - ・ 家賃補助や空き家の活用による住宅の確保
 - ・ 若者の自己実現（新規事業や企業等）をサポートできる仕組みづくり
- 子育てしやすい環境整備
 - ・ 子どもの遊び場の確保
 - ・ 親世代が地域参加できる仕組みづくり
- 交流人口の拡大に向けた取り組みの充実
 - ・ 新しい市民会館の活用
 - ・ 市の観光地やイベント等の情報発信、PR不足・交流施設等の受け皿不足の解消
- 地域コミュニティの再建
 - ・ 団塊の世代を引き込む
 - ・ 地域リーダー（お世話係）の発掘
 - ・ 市民同士や民間団体の助け合い活動に対する行政のサポート充実
 - ・ 三世代交流の場の充実
- 子どもから高齢者までだれもが住みやすいまちづくりの推進
 - ・ 高齢者の生きがいづくり
 - ・ 買い物困難者への支援
 - ・ 有償ボランティアの活用促進
 - ・ 専門職（保健師、社会福祉士、介護支援専門員、訪問介護員等）の資格取得費用の助成

【総括】

- 健康福祉分野の団体においては、少子高齢化等の影響による会員数の減少や担い手不足とともに、専門職（保健師、社会福祉士、介護支援専門員、訪問介護員等）の不足が課題となっており、資格取得費用の助成等による人員確保のための支援が求められています。
- 子育てしやすい環境の整備として、子どもの遊び場の確保や、子育て世代の親も子どもと一緒に地域参加できる仕組みづくり等、地域ぐるみで安心して子どもを産み育てられる取り組みの推進が必要とされます。
- さらに、高齢者のための生きがいづくりや買い物困難者への支援、有償ボランティアによるサポート体制の整備等により、子どもから高齢者までだれもが住みやすいまちづくりの推進が求められています。
- 一度は市を出ていった若者が観音寺市に戻り定着するためには、企業誘致等による雇用機会の創出及び、新婚家庭への家賃補助や空き家の利活用による住宅の確保が重要となっています。また、若者が興味を持つ“楽しい”イベント等を既存の祭り等以外に生み出すことが、若者を引き留めるために有効と考えられます。
- 新しい市民会館による交流人口の拡大が期待されますが、イベント等の情報発信やPR、交流施設等の受け皿整備に対する課題への、早急な改善が求められます。
- 地域コミュニティの再建には、団塊の世代を引き込むことや地域のリーダーを発掘、育成すること等が必要であり、併せて行政のサポートが求められています。

3日目 農林水産・商工観光・建設グループ

1. 日頃活動を行う上で困っていることや問題点

課題解決に向けて、必要だと思うことや既に取り組んでいること

※問題点（●）、必要だと思うこと・現在の取り組み（○）

- 人口減少、若者の流出による、事業所の減少及び後継者不足
- 組織運営の一体化
- 農業人口の減少により、作付面積の確保が困難
- Uターン希望者への再就職の斡旋
- 創業支援、異業種交流の充実
- 既存企業の転出抑制対策
- 若者の農業離れ対策として、儲かる農業のしくみづくり
- 農家の負担軽減のための、育苗、植付け、収穫等の支援業務の実施
- 中高生の職場体験等を通じた地元企業の紹介
- 定期的な市との意見交換会の実施
- 交流人口増加に向けた大学やまちづくりネットワーク Re:born. K 等の若い世代との連携
- 新規創業希望者の受け入れ体制づくり「shop in shop」

2. 人口減少を抑制し、今後も活力あるまちを維持するために力を入れるべきこと

観音寺市の今後のまちづくりに関する考え、アイデアなど

- 若者の定住、Uターン対策の充実
 - ・企業誘致、地場産業への支援による働く場の創出
 - ・親との近居、同居希望者に向けた支援の充実
 - ・市内出身の大学生に向けての企業説明会の実施
 - ・中高生に向けた市内企業の紹介の場の充実
- 子育て支援の充実
 - ・子育て支援に係る補助金、助成金の充実による他の自治体との差別化
- 産業振興の推進
 - ・新規就農者及び農家への作業支援、各種助成の充実
 - ・心の病気や障害をもつ子どもの受け皿としての農業の活用
 - ・ある分野に特化した新産業の誘致
 - ・行政と民間企業によるまちづくりに関する話し合いの機会の創出
- 交流人口の拡大
 - ・産業観光等の新しい観光資源の創出
 - ・観音寺市の魅力の発信
- 地域コミュニティの確立
 - ・住民の意識の変革による受け入れ体制の充実
 - ・まちづくりリーダーの育成
 - ・まちづくり条例の制定
- 人口減少に対応した住みやすいまちづくりの推進
 - ・コンパクトシティの形成

【総括】

- 活力あるまちを維持するためには、企業や工場等の誘致により、雇用機会を増やすことが重要です。
- 交流人口の増加に向けて、新しい市民会館の活用や観音寺市の魅力の情報発信の強化が求められています。また、今後は産業観光等の新しい観光資源の創出も期待されます。
- 観音寺市をさらに盛り上げていくためには、行政と民間による話し合いの場を設け、今後のまちづくりについてアイデアを出し合うような機会を増やすことや、まちづくりリーダーの養成等、官民一体となった取り組みの推進が必要とされています。
- 若い人に観音寺市に住み続けてもらえるよう、子育て支援の充実、雇用の場の確保及び雇用に関する情報の提供が必要です。特に市内の中高生や市内出身の大学生に向けて、市内の企業の紹介の場を設ける等、積極的な情報発信の強化が求められています。
- 創業や新規就農等、新しく何かを始める方を市全体で応援できるような住民の意識の変革も必要です。
- 人口の減少を緩やかにするための取り組みを推進する一方で、インフラ整備におけるコンパクトシティの推進等、人口減少社会に対応したまちづくりも必要とされます。